

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果

達成度(評価)

- A: 十分達成できている
- B: おおむね達成できている
- C: やや不十分である
- D: 不十分である

学校名	佐賀市立城東中学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落ち着いた授業態度であり、スムーズに学習が進められている。掲示物などにも工夫が見られ、生徒の頑張っている姿が反映した。落ち着いた授業態度であり、スムーズに学習が進められている。掲示物などにも工夫が見られ、生徒の頑張っている姿が反映したものになっていた。また、学校全員の生活に充実感や達成感を味わえた生徒や保護者の支持が多くあったのも、先生方の意識の高まりの成果だと考えられる。</li> <li>・コロナ禍で、学校行事や諸活動が中止や縮小する中で、生徒の活動する場を、今後も工夫して進める必要がある。</li> <li>・評価するためのアンケートの内容について、目標と内容との整合性をとらせるため、検討を要する部分があった。</li> </ul>
------------------	---

2 学校教育目標	夢実現◇成長の根幹づくり
----------	--------------

3 本年度の重点目標	① 基礎・基本と学びの交流を大切に授業づくりによる「学力の向上」(質の高い教育をみんなに) ② 集団づくりによる不登校の未然防止 ③ 「出番」、「役割」、「承認」、温かな雰囲気による問題行動の未然防 ④ 信頼関係の構築(生徒・教職員・保護者・地域連携・小中連携) ⑤ 健康・体力・安全教育の推進(感染症対策、交通安全対策の実施) ⑥ 道徳教育、進路・キャリア教育の充実(進路実現100%) ⑦ 学校課題に応じた教職員研修の充実
------------	---

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目			最終評価		
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果
				●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践 ○県の学習状況調査において、各教科で県平均以上の通過率を目指す。 ○「毎日の授業に一生懸命に取り組んでいる。また、計画的に家庭学習に取り組んでいる。」と回答した生徒80%以上
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 ○自己肯定感を高め、自他を尊重できる生徒を育てる。 ○アンケートに「学校生活は楽しい」と答えた生徒を92%以上にする。	・特別の教科道徳の実践を道徳的な資質・能力の向上のみならず、学びに向かう力や思考力・判断力・表現力を培う指導技術向上のための基幹的な取り組みと位置付ける。 ・差別の現実深く学びながら、差別を見逃さず、差別を許さない、差別と闘うことのできる生徒を全教科・全領域で育てる。 ・人権・同和教育の授業実践、人権講話、人権作文・人権放送などに取り組み、身の回りにある課題に気づきあい、その解決に取り組むことにより人権意識を高める。	B	・全国人権作文コンテストに全学年が取り組み、現代の人権課題について考えさせることができた。 ・各学年で部落学習を始めとした人権学習や放送による人権講話、「いじめ・いのちを考える日」の取組によって、生徒の人権感覚を育むことができた。 ・各学年で、学級活動や学校行事などで、生徒に必要な知識や考え、行動の仕方などに関連させるために、教材を選別したり、独自の教材を準備したりして道徳の授業を計画的に行い、教材研究を相互に深めた。 ・学校生活は楽しいと答えた生徒は91.9%であった。	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 ○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)に向けて学校は積極的に取り組んでいると思うと回答した生徒90%以上	・月1回の生活アンケートをもとに、生徒の実態把握に努める。 ・SCやSSWと連携し、迅速にケース会議を実施する。 ・毎週木曜日の教育相談部会を充実させる。 ・定期教育相談(年2回)を実施する。 ・QUテストの実施と研修会の実施。	B	・いじめのない学年・学級づくりに向けて学校は積極的に取り組んでいると思うと回答した生徒は93.7%であった。 ・月1回の生活アンケート及び年3回の教育相談期間だけでなく、日頃から生徒との対話や交換ノートなどでいじめの早期発見に努めた。 ・週1回の生活指導部会や教育相談部会で気になる生徒については情報交換・共通理解を行い、職員の周知に努めた。	
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」 ●「安全に関する資質・能力の育成」	●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒(中学3年生)85%以上 ●「先生はあなたのよいところを認めてくれると思う」と回答した生徒80%以上	・生徒の規律正しい生活や健やかな成長のために、部活動の休養日や練習時間のバランスを適切に設定する。 ・防犯教室、交通安全教室を開催し、生徒の安全に対する意識を高める。 ・登校時や下校時に交通指導を行い、交通ルールやマナーを身につけさせる。 ・校外における危険箇所等について、PTAや地域住民と情報を共有し、生徒への指導に役立てる。	B	・キャリア教育においては本年度は2年生で職場体験が実施されて意識を高めることができた。 ・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒(中学3年生)は80.2%だった。 ・「先生はあなたのよいところを認めてくれると思う」と回答した生徒は80.7%だった。
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 ●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●授業以外で体を動かす時間が1週間で7時間以上の生徒80%以上。 ●生徒の交通事故件数を昨年よりも減少させる。(10件以内)	・学校行事や会議等の随時見直し及び職員間の共通理解・共通実践を図ることで、「チーム城東」として協調・協働する職員体制を確立させ、業務改善を図る。 ・県下一斉部活動休養日(月の第3日曜日)と各部活動ごとに週2回の休養日を徹底する。	A	・授業以外で体を動かす時間が1週間で7時間以上の生徒は65.6%だった。 ・学校生活の中や登下校の際に、事故や事件にあわないように、日頃から気をつけて生活している生徒は95.6%、そう思う保護者は87.1%だった。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 ●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限(月45時間以内)を遵守する職員60%以上。 ○アンケートで「生徒と向き合う時間が増えた」と回答した職員75%以上。 ○アンケートで「部活動の計画的な練習日程や休養日の設定を行っている」と回答した職員90%以上。	・学校行事や会議等の随時見直し及び職員間の共通理解・共通実践を図ることで、「チーム城東」として協調・協働する職員体制を確立させ、業務改善を図る。 ・県下一斉部活動休養日(月の第3日曜日)と各部活動ごとに週2回の休養日を徹底する。	A	・教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限(月45時間)以内の職員61.9%だった。 ・アンケートで「生徒と向き合う時間が増えた」と回答した職員87.5%だった。 ・アンケートで「部活動の計画的な練習日程や休養日の設定を行っている」と回答した職員90.7%だった。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・教師と生徒との関係はうまくいっているようで、良い雰囲気の中で学校生活を送ることができている。授業については、教師の方をしっかりと見て受けており、先生方も授業改善を図りながら自信を持って指導されている。 ・設定したそれぞれの成果指標については、学力の向上・心の教育・働き方改革について達成することができた。学校評議員会においても委員の方々からは、学校の取組に賛同され高い評価を得ることができた。 ・項目によっては、生徒の評価と保護者の評価の差があるため、学校の取組や生徒の様子を保護者に更に知らせていくことが必要と考える。
----------------	---